

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702800		
法人名	有限会社ケア・サービスさかえ		
事業所名	グループホームころこ		
所在地	北九州市八幡西区木屋瀬二丁目7番8号		
自己評価作成日	平成26年8月8日	評価結果確定日	平成26年9月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートურიზნ
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開所時から町内会や商工会に加盟し地域の行事に参加して、グループホームの存在を理解していただき、木屋瀬のボランティアの方々にイベントに参加していただいています。 木屋瀬祇園山笠や宿場祭り等に参加したり見学したりと、地域との交流を大切にしています。 愛犬のころこは、ご利用者のみならず、近所の方々にも人気もので、ホーム敷地内で触れ合っております。 玄関は、殆ど施錠しておらず気軽にホーム内の見学ができます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所10年目のグループホームころこは、入居者との散歩で地域交流に役立っている愛犬ころこがのんびりと日陰に寝そべり、玄関には一昨日の夜咲き誇った月下美人などの季節の花が訪問者を迎えてくれる。 離所者を地域の方の協力で15分で発見できるなど、ホームの名称や特色が地域に理解され、理念の地域の一世代としての生活が具現化している。定期的なカンファレンスでモニタリング結果を話し合い、60歳後半の入居者をそのまま受け入れ、意欲や能力に応じた役割探しや役割づくりを支援している。また、協力医療機関との連携で2名の看取りに関わり、その家族の親族が入居するなど、終末期の経緯や家族との関わり、配慮について洞察する貴重な機会となっている。家族会を開催したり、家族アンケートで意見を伺う機会を設け、常に笑顔と真心で接しながら、今後も地域に密着したサービスの提供が期待できるホームである。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **グループホームこころ**

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、定期的に行なう社内ミーティングで話し合いをしている。	理念をパンフレットに記載したり、共用空間に掲示している。職員は理念を暗唱しながら、入居者が笑顔になった時、入居者によりそい安心できる生活づくりが実践できていると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	可能な限り地域の行事に参加している。ホームに住所を移している方に、敬老お祝い金を民生員の方が持参していただいて、一緒にお祝いしている。	地域のボランティアを招いてイベントを開催したり、ホーム主催の敬老会を地域に案内している。離所した方がホームの入居者ではないかと交番まで同行してもらうまでに、ホームの名称や特色が地域に理解されている。管理者は、愛犬こころと入居者の散歩が地域との交流に役立っていると話している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議に参加している民生委員や、市の職員方との話し合いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービス向上に活かせるように、努めている。	家族や民生委員、地域包括支援センター職員等の参加で、定期的開催されている。民生委員から地域行事や公民館活動、近隣の相談について情報提供があったり、家族からは「こころのようなグループホームが増えてほしい」等の意見があった。	発行されているホーム便りに会議抄録を記載し、家族にさらなる会議開催の趣旨の理解や協力をお願いされてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議に参加している市の職員の方に、ホームの空室状況を伝え、地域で困っている方が居ないか等たずねている。	地域包括支援センター出張所に出向き、情報を得たり、居室情報を提供するなど、日頃から連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外での研修に参加し、身体拘束を行なわないケアに努め、身体拘束ゼロ委員会を組織している。離所の防止にチャイムを設置し、その時々に応じ、玄関は施錠している。	外に出ると迷子になるからと話していた入居者が離所した折は、地域の方の協力により15分で発見された経緯がある。玄関や台所にセンサーを設置し、言動に応じた声かけや見守りをしている。また、身体拘束の研修に参加し、車イスの適切な活用について学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内や社外での研修に参加し、高齢者虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市のパンフレットを活用したり、市主催の研修会に参加している。	いつでも情報を提供できるように、共用空間に制度や事業に関するパンフレットを整備している。現在まで、制度や事業の活用について関係機関と協議したことはない。管理者は同業者協議会主催の制度活用支援研修会に参加する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や意見・要望は気軽に話せている。意見箱を設置し、いつでも投函できる。職員に利用者の各担当を決め、意見や要望を気軽に話せるようにしている。家族アンケートを実施し要望等を聞き取りした。	日頃から家族が気軽に話せる関係づくりに努め、敬老会の折に家族会を開催したり、年1回家族アンケートで意見を伺う機会を設けている。アンケートの回収率は高く、外出してほしいとの要望もあり、近隣の大型スーパーに買い物に出かけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行なう社内ミーティングで、要望や提案を尋ね職員が意見しやすい職場環境に努めている。	毎月のミーティングは職員が意見を出しやすい会議になっている。昼夜逆転傾向の入居者に、好きな歌手の歌を聴いて昼間は目を覚ましてもらえるようにしてはとの担当職員の提案で、家族にCDやラジカセの購入をお願いして、逆転傾向が軽減している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の能力に応じ業務を任せている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別は問わず募集しているが、思うように人材確保ができていない。	ハローワークや民間広告を通じて求人している。入職後はOJTを実施し、夜勤は1ヶ月後からとしている。介護支援専門員等の資格取得を支援するために、シフトに配慮したりしている。5年以上就業している職員もあり、職員同士で業務上の悩みを相談し合う環境もあり、入居者と良好な関係づくりができていると入職1年目の職員は話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎年人権週間に研修を行っている。	年間研修に人権研修を組み込んでいる。人権研修週間に配布される市政便りを活用して、人権研修を実施している。福祉関連事業の職員として、車いす専用の駐車場に駐車することのないように申し合わせをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修に参加できる機会が、減っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	親睦会やGH協議会の研修や報告会に参加している。 他のGHの職員との交流時には、情報交換し社内ミーティングを通し、サービスの質の向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限りご本人やご家族の方との面談を行い希望や要望等聴いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の相談時(電話・訪問)から詳しくお話を聴き、可能な限りご本人にも見学に来ていただいている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じ他のサービスや施設の検討をすすめている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務を優先する事ないように常に心がけ一緒に過している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時はもちろん必要に応じて電話での現状報告(日常的な出来事や急変時等)し、ホームのアルバムを回覧したり年に3～4回はホーム便りを配布している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方や友人関係の方宛に本人が書いた手紙を定期的に出している。(年に4~5回)	近隣からの入居者もあり、家族などの訪問を歓迎したり、入居以前の交流を継続するために、家族等へのお便りの作成を支援している。また、看取りを支援した入居者の家族が、最寄りの電停までのチケットが残っていると、3ヶ月間ホームを訪れて、職員と故人のありし日々を偲んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がふれ合えるような環境や雰囲気作りを職員も心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人及びご家族の方に希望を聞き、出来る限り希望に応じられる様に取り組んでいる。	基本情報やアセスメントシートを整備している。再度アセスメントした情報を印字の色を変えて書き加え、心身の状況の変化の把握が容易である。職員を担当制にすることで、思いや意向の把握に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方やご本人に生活歴等を聞き取り職員全員で把握するように個人ファイルに綴じている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に心がけ現状はどうなのか観察し、日々記録している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴等の情報を収集ご本人や、ご家族の意見や要望を取り入れ、介護計画を作成している。	定期的なカンファレンスで担当職員がモニタリング結果を報告し、入居者や家族の意向に沿ってケア内容や目標の見直しを話し合っている。60歳後半の入居者もあり、意欲や能力に応じた役割探しや役割づくりを支援している。	担当者会議に出席できない家族の思いや意向を、担当職員が代弁した記録の整備をお願いします。記録に沿った介護計画書を家族に説明し、了承いただくことで、さらなる思いや意向の把握を期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人とのやりとりを行なった介護等を詳細に記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の能力に応じ、家事や買い物等できる様に支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に応じて入居前のかかりつけ医を継続しているが、現在はホームでの往診者が多い。	家族と医療機関で合流して、入居前のかかりつけ医の受診を支援しているが、それも難しくなった家族もある。協力医療機関の医師は、定期診療以外でも病状観察のため来訪されることが度々あり、良好な関係が築かれている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護記録とは別に気づきノートを活用し個人の情報を伝達している。 常に看護師へ報告・連絡・相談し健康や安全に配慮したケアを行なっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はこまめに脚を運び状態や経過の情報を得ている。 早期退院に向けたマニュアルを作成		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的な場合は病院への搬送が多いがご本人や家族の意向を入居時に確認し1年に1回再確認している。今年も看取りを実施した。	ここ1年、2名の看取りに関わっている。主治医からホームでの具体的な看取りについて説明を受け、納得した家族もある。管理者は入居していた親族の看取りも経験し、終末期の経緯や家族との関わり、配慮について洞察する機会になっている。また、看取りを支援した家族の紹介で、親族が入居するなど、家族の感謝の思いが伺える。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時マニュアルを作成し見やすい場所に掲示してある。 社内研修でも外部の協力を得て実践出来る様に努めている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時避難マニュアルを作成し避難訓練を利用者と共に行っている。 指定避難場所までの避難訓練を実施した。	火災報知器も設置され、年2回避難訓練を行っている。水消火器を使用した訓練では、入居者の奮闘をホーム便りで紹介している。町内の会合で、災害時の入居者の避難について、理解や協力をお願いしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい暮らしが継続出来る様に、常に配慮し行なっている。	○○さんとの声かけだけでなく、馴染みのある呼称で声かけをしている。家族と同じ名前の職員がいることで、落ち着いた入居者もあり、各入居者に応じた穏やかな対応を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人との対話に基づき個人を第一に考え支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送れるように心がけているが比較的自由に過ごしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用している方が多い。 お化粧品も持参している方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形状や自助具の工夫、食事時の姿勢等個人に合わせている。 食事介助の方が多く、朝食を行いゆっくり個人のペースで食べていただいている。	スプーンが使いやすいように片側に厚みがあるお皿を使ったり、食器を並べ替えたり、見守りや指示で自力での食事摂取を支援している。隣に座った職員の弁当を可愛いとしきり話す入居者もあり、各入居者の状況に応じた食事介助をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士に献立を作成をお願いし栄養バランスは十分である。食事量や水分量は1日を通じ記録を残している。その日の気分で食事(ご飯)が摂れない場合は、好みの食べ物を捕食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々に応じた介助等をしながら行っている。又歯科衛生士による指導も取り入れ歯磨きが困難な方には、スポンジを使用しイソジンウガイ薬で口腔内を消毒をしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人の排泄パターンをチェックしその都度トイレでの排泄を心がけている。 ご本人からのサインを見逃さない様になっている。	尿意の訴えがあり、バルーンカテーテル留置からおむつになった入居者や、留置したカテーテルを時間毎に開放している入居者もある。夜間、トイレの声かけをするが、本人の意向に任せ、失禁時は衣類などの交換を支援する入居者もあり、本人の意欲や能力を見極めながら、支援している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為に、こまめに水分補給をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	2～3日のペースで入浴している。 毎日お風呂にお湯を入れるので、いつでも入浴は可能である。	清潔な浴槽で入浴を支援したいと、全職員で丁寧に浴室を清掃している。立位が保持できない入居者は、職員が2人体制で支援したり、入るのが面倒と話す入居者には、いつでも浴室を覗いて入る気になれば入れる環境を整えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や気分に合わせて外気浴や散歩等行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医からの処方された説明文を個人ファイル綴じ周知している。 また処方の変更が有った場合は看護師から介護職員に伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力に合わせ役割分担している。 ペット等の世話、花壇の水やりや台所のお手伝い等		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に外出の機会をスケジュールに入れているが、重度の利用者が多く、外出機会は少ない	近所のスーパーでノンアルコールビールを飲んで満足して帰ったり、途中で歩けない場合は職員が車で迎えに行くこともあり、外に出たいとの入居者の思いを支援している。家族が同行して散髪をしてくれる入居者もあり、家族の状況に配慮しながら連絡をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り金銭管理はご本人で行なっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その都度対応している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾り物又は利用者が創作した壁画等を飾っている。 イベントの写真等飾っている。	一昨日の夜が満開だった月下美人など季節の花がプランター等に植えられ、入居者や訪問者の目を楽しませている。玄関から施設全体がバリアフリーになっている。トイレは清掃が徹底し、管理者の初心である臭いの無いホームづくりが継続されている。電車の音も気にならずレースカーテンから優しい陽が入り、静かな日常が流れている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い場所を確保している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自居室には自宅で使用していた馴染みのあるベッドや整理筆筒等を持ち込み生活している。	入口のドアには入居者名や造花が飾られているが、家族の意向で氏名が掲示されていない居室もある。日用品や家具を持参し、家族写真を飾ったり、自作の手芸作品を掲示するなど、個々の入居者らしい居室づくりをしている。家族が希望されれば宿泊も可能なスペースである。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで各所に手摺りを設置しトイレや居室には表札を付け出来る限り自立した生活を送れるようにしている。		